

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2【かかわる】	<p>⑪【ボランティア】 他の人や地域社会に役立つことを自分から進んで実践し、他人の喜びを自分の喜びとして共感する。</p> <p>⑭【復旧・復興へのあゆみ】 震災津波で被害を受けた交通網や産業、住宅やまちの復旧・復興の状況を調べ、安全で生き生きしたまちづくりにかかわる。</p>	総合的な学習の時間
3【そなえる】	<p>⑮【東日本大震災津波の様子と被害の状況】 平成23年3月11日に発生した、東日本大震災津波の様子と被害の状況について理解する。</p> <p>⑰【自然災害の歴史】 過去に起きた自然災害や自然災害と共存してきた人々の努力や工夫などについて調べ、防災・減災について理解するとともに、次世代へ語り継いでいく。</p>	

【題材】

体験から学ぶ（宮古市田老地区見学及び田野畑小学校との交流）

【対象】

第5・6学年（5年 男子24名 女子22名、6年 男子36名 女子26名、計108名）

【実践の概要】

『体験から学ぶ』ということに主眼を置いた教育活動を組み立てた。震災津波により被災した地域の様子を自分の目で見たり、被害にあわれた方の話を自分の耳で聞いたりするという体験、及び横軸連携校の田野畑小学校との交流を通して、児童一人一人が得た思いや気付きから学びを広げるようにした。

具体的には、5・6年生が宮古市田老地区を見学し、田野畑小学校との交流会を実施した。自分たちが聞きしてきたことから感じたことを、そして、自分たちにできることを考え、作文や新聞、写真等を使いながら、また、表現活動を通して校内及び地域に向け発信した。さらには、3・4年生に向けての見学の報告会を実施した。参観日を使い、保護者に対しての報告会も実施した。

【実践の詳細】

(1) 事前学習（5・6年共通）

- ・震災当時のことを調べる。
- ・今の被災地の様子を調べる。
- ・復興に向けた取り組みについて調べる。



〔調べ学習の様子〕



〔宮古市田老地区の見学〕

(2) 被災地見学及び田野畑小学校との交流

（5・6年共通）

- ・9月に宮古市田老地区を訪問する。
- ・自分の目で被災地の様子を見、語り部の話から当時の様子や現在の状況等について把握する。
- ・田野畑小学校との交流会を実施する。



〔交流会の様子〕

(3-1) 被災地のためにできることを考え、実行する。（6年のみ）

- ・被災地見学の振り返りをし、見学のまとめを行う。
- ・まとめたものについては、掲示や表現活動により発信する。
- ・被災地のために自分たちに何ができるのかを考え、実行する。

(3-2) 自分が見聞きしてきたことを発信する。（5年のみ）

- ・被災地見学の振り返りをし、見学のまとめを行う。
- ・まとめたものについては、3・4年生に向けて報告会を行う。



〔3・4年生への報告会〕

【授業の展開】

◆5年生の展開〔実践の詳細の（3-2）〕

①学習活動

- ・見学から見聞きし感じたことから、伝えたいことを考える。
- ・発表の準備をする。

②支援や準備

- ・発表方法を選択させる。
- ・模造紙、新聞、スピーチ、作文、写真活用、インタビュー形式 等

◆6年生の展開〔実践の詳細の（3-1）〕

①学習活動

- ・自分たちにできることを考え、調べ、実行する。

②支援や準備

- ・分かりやすく発信させる。
- ・感じたり学んだりしたことを、しっかりと伝えさせる。
- ・相手の立場になって考えさせる。



〔新聞によるまとめ〕



〔募金活動の様子〕



〔学習発表会での発表〕



〔見学写真の展示〕

③学習を通しての子どもたちの様子

5・6年生とも、とても真剣に学習に取り組むことができた。事前に調べ学習を行い、震災の様子を学んだり、実際に被災した地域を目にしたりしたことで、課題意識をしっかりともち、学習に対する意欲が高まっていたためと思われる。それにより、子どもたちの学習も、終始一貫した学びを行うことができていた。また、震災から2年半となる9月11日に被災地の見学を行ったこと、そのため新聞報道等も充実したものになっていたことも、子どもたちの学習を支えるよい材料となったようである。

【児童の感想】

◆5年生

- ・私が、被災地見学で学んだことは命の大切さと助け合う気持ちです。みんなが、助け合って支え合ってがんばっているのが伝わってきました。
- ・田野畑小との交流では、キャベツの贈呈がありました。キャベツを渡すとき、「お互い復興のためにがんばろうね。」という気持ちを乗せて渡しました。

◆6年生

- ・復興とは何か。復興には何が必要か。これは学習を始めるまでの疑問だったが、事前研修にリーダー研修、そして、被災地見学や防災センターの見学を通して自分なりの答えを見つけた。それは、復興には全員の強い心が必要であること。その復興とは、全員が心から楽しいと思える笑顔になることである。まだ笑顔になれない人達を、私たちは全力で応援していく。もし震災のことを忘れていた人がいたら、思い出し、一緒に応援してほしいと思う。

【保護者の感想】

学習発表会の6年生の発表の中で、「1個のおにぎりを三人で分け合って食べました。」という言葉がありました。私は、その当時のことを思い出しました。子どもたちが被災地の方々の気持ちに少しでも触れ、現地を見て何かを一人一人が思ったに違いないと思いました。

【まとめ】

今回の学習を振り返ると、「体験から学ぶ」という学習のねらいは、十分に達成することができた。やはり、被災地を実際に訪問し自分たちの目や耳で感じ取ることは、とても大きな教育的効果をもたらすということが明らかとなった。来年度以降も、ぜひ継続して行っていきたい。また、来年度以降は、今年度の実践の反省に基づき「いわての復興教育」プログラムに示されている3つの教育的価値を育てていくために、「道徳教育」「ボランティア教育」「防災教育」の3つの教育活動に重点を置き、実践を積み重ねていくようにしたい。そのためにも、本校の教育活動の見直しを進め、活動の再構築を図っていきたい。